kosei
生かされ、生きるチカラ。

心に寄り添える母のように。

宮崎教会　大越崇景さん

「どうして55歳の若さで亡くならなければならなかったのか」。大越さんは母の死の意味を見出せずにいた。明るく朗らかな母。常に相手の話を一心に聞き、親身になって共感する姿は大越さんの目標となっていただけに、死を受け止められずにいた。その心の支えとなってくれたのが同じ体験を持つ仲間だった。親を亡くした寂しさ、悲しみを理解し、受け止めてくれた。会話を繰り返すうちにしだいに心が和らいでいく。これは、生前の母が行なっていたことと同じだと実感した。大学を卒業後、故郷・富山の農協で働き始めた。母がいつも見守ってくれていると思うと、前向きな気持ちになれるという。大越さんはいま、母が身をもって教えてくれた「一人ひとりの心に寄り添う」ことを実践するのが自分の役目であり母への供養だと確信し、新たな目標に向かって歩みはじめた。

いま、自分にできることを

私たちは、いま世界中に広がっている病気によって苦しむ人たちに心を寄せ、事態が早く終息に向かうことを願うばかりです。一人ひとりが、自分にできることは何かを考え、それを日々、粛々と実践していきたいと思います。

仏と私たちは、「一体不二」といわれます。凡人も聖人も、その本質は一つという意味の「凡聖不二」という言葉もあります。私たちに仏の教えの尊さがわかるのは、その根っこにある「すべての人を救いたい」という尊い願いが自分にもあるからです。人間として命をいただいたということは、仏と同じものを具えているということ――それを信じることが信仰であり、信心といえるでしょう。

ところで、法華経の「従地涌出品」に登場する「地涌の菩薩」のような人を「衆生の見んと楽う所」、すなわち「すべての人がお目にかかりたいと渇望するような方々」だといいます。その方々に共通するのは、神仏などを尊び敬う心が強く、一方では苦しみや悲しみの底に沈む人を常に思いやる、情愛あふれるという点です。私たちも、そのような菩提心を発して、日々に精進をしてまいりましょう。

立正佼成会
www.kosei-kai.or.jp Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615